

学校法人 育英学院
平成28年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 法人の位置

法人名	設立年月日	理事長名	住 所	電話・FAX
学校法人 育英学院	昭10.4.1 設立 昭15.2.22 財法 昭26.2.26 学法	並木 豊勝	東京都町田市小山ヶ丘4丁目6番8号	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3023

(2) 法人の設立目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従いつつ、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とする。【学校法人育英学院都附行為 第3条】

(3) 法人設置の学校

学校及び学科名	設置年月日	校長・園長名	住 所	電話・FAX
サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 電気工学科 機械電子工学科 情報工学科	昭37.12.15 昭37.12.15 昭37.12.15 平元.12.22 平元.12.22	小島 知博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号 http://www.salesio-sp.ac.jp/	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3021
サレジオ中学校	昭23.3.24	北川 純二	東京都小平市上水南町四丁目7番1号	TEL 042-321-0312
サレジオ小学校	昭22.3.29		http://www.salesio.ac.jp/	FAX 042-321-0776
目黒サレジオ幼稚園	昭24.8.30	グロゴウスキー パウロ	東京都目黒区碑文谷一丁目26番24号 http://www.m-salesio.com/	TEL 03-3714-2531
足立サレジオ幼稚園	昭42.3.13	石井 靖人	東京都足立区江北三丁目40番27号 http://www.adachi-salesio.com/	TEL 03-3899-4497
町田サレジオ幼稚園	平27.4.1	小島 知博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番2号 http://www.machida-salesio.ed.jp/	TEL 042-775-3120

※ 足立サレジオ幼稚園長 石井靖人は平成28年1月16日死亡退職

平成28年7月1日より松永國治が足立サレジオ幼稚園副園長に就任し、園長不在時の補佐を行った

(4) 学生・生徒園児の状況 ()内は定員

(平成28年5月1日現在)

学校名	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	専攻科2	合 計
		3歳児	4歳児	5歳児			専攻科1		
サレジオ工業高等専門学校		人 (180)196	人 (180)199	人 (180)182	人 (180)156	人 (180)149	人 (14)16	人 (14)4	人 (928)902
専攻科							(14)16	(14)4	(28)20
デザイン学科		(45)43	(45)44	(45)39	(45)34	(45)36			(225)196
電気工学科		(45)46	(45)50	(45)38	(45)32	(45)34			(225)200
機械電子工学科		(45)57	(45)55	(45)51	(45)43	(45)39			(225)245
情報工学科		(45)50	(45)50	(45)54	(45)47	(45)40			(225)241
サレジオ中学校		(30)31	(30)27	(30)20					(90)78
サレジオ小学校		(30)17	(30)19	(30)21	(30)20	(30)22	(30)20		(180)119
目黒サレジオ幼稚園		(110)142	(170)139	(170)145					(450)426
足立サレジオ幼稚園		(20)29	(110)32	(110)24					(240)85
町田サレジオ幼稚園		(60)35	(60)24	(60)					(180)59
計		(430)450	(580)440	(580)392	(210)176	(210)171	(44)36	(14)4	(2068)1849

(5) 学校法人役員<理事・監事>

(平成28年5月1日現在)

役職	氏名
理事長<互選>	並木 豊勝
理事<高専 校長>	小島 知博
理事<中学校長>	北川 純二
理事<評議員互選>	グロゴウスキー パウロ
理事<評議員互選>	濱邊 正
理事<評議員互選>	木戸 能史
理事<功 労 者>	米本 光男
理事<功 労 者>	小島 勉

役職	氏名
監事	渡辺 新
監事	長谷川 純也

※理事定数：6～8名

※監事定数：2名

(6) 評議員 (定員18名) 氏名省略

(7) 教職員の現状

(平成28年5月1日現在)

学校名	職名	校長 園長	教授	准教授	講師 教諭	助教 助手	非常勤 講師	事務 職員	非常勤 職員	合計
法人本部		人	人	人	人	人	人	3	人	3
サレジオ工業高等専門学校		1	13	23	12	4	44	21	12	130
サレジオ中学校		1			11					12
サレジオ小学校		(1)			9		2	1		12
目黒サレジオ幼稚園		1			19		2	3	9	34
足立サレジオ幼稚園		1			5		2	1	2	11
町田サレジオ幼稚園		(1)			6		5	1	1	13
計		4	13	23	62	4	55	30	24	215

※ 校長・園長の()は法人内他校兼務者

2. 法人本部の方針

- 1 内部監査の強化、法人監事との連携
- 2 経理関係規程の整備
- 3 法人本部体制の強化
- 4 人件費の維持と抑制
- 5 事業所支援 (主として目黒サレジオ幼稚園)

3. 高等教育事業 (サレジオ工業高等専門学校) の概要

少子化、若者の工学離れという高等教育機関を取り巻く環境は依然として厳しい状況であり、学校経営への影響は確実に顕在化しつつある。厳しい競争環境のなかで、本校が勝ち抜き、生き抜いていくためには、原点である建学の精神に基づくミッション (使命) を大切にし、教育研究の充実を図り「選ばれるサレジオ高専」を目指して、教職員一同が校長方針のもと、一致団結して邁進することが重要である。そのために19年度に発表した経営ビジョンをふまえて中期計画を実行している。平成28年度は第IV期の中期経営目標 (平成28-30年度) の初年となる。

5年間一貫の特色ある教育を行う高等教育機関であり、唯一の私立ミッション系高専として創業者ヨハネ・ボスコの精神を教育活動に活かし、よき社会人、よき技術者を日本社会に送り出し、地域連携、産官学連携によって開かれた高専になることを目指して、中期経営目標の第IV期目における本年度事業計画を策定した。事業計画は「選ばれるサレジオ高専」を強く意識し、本校の価値や魅力を向上させることを目的としている。平成28年度は第四期の初年にあたる。

(1) 教育・研究力の強化

<1> JABEE の受審

平成26年度に受審したJABEEを平成29年度に受審するために準備を始めた。平成28年11月に受審することが決定し、

そのための準備をした。

<2> 教職員によるアシステンツァの実践強化

創立者の教育法であり、また本校の教育法でもある予防教育法を理解するとともに、この教育法を実現する手段であるアシステンツァ（ともにいて指導する）の実践を学校全体で実施した。卒業と同時に就職する学生たちの状況を鑑み、きちんとあいさつをすることからはじまる学生のコミュニケーション能力の向上をはかった。

<3> 一般科目、専門科目の教員間の連携の組織化

「デザインマインドのあるエンジニア、エンジニアマインドのあるデザイナー」の育成を目指して、学科間の連携を推進した。デザイン科の専攻科への参入の本格検討を行っている。また一般科目との連携を模索することで5年間での教育内容につながりを持たせることで、全校レベルでの教科内容での連携は実行に至っておらず、引き続き次年度以降継続していく。

<4> 課外活動の活性化

学生がより充実した学生生活を送るために、課外活動の魅力を高めることで活動を活性化に取り組んだ。学生部が中心となり、活動の目的を明らかにし、具体的な目標を掲げ、意識的に活動することで課外活動の魅力を高めるようにしたが、まだ成果を見るには至っておらず、継続していく。

<5> 研究環境の整備と推進

平成 27 年度に引き続いて、教員の研究環境の整備を私学財政の厳しい中で、教育研究の改善を図った。科研費の取得者を増やす取り組みは継続中だが、共同研究を推進することで、教員全員が科研費や産学連携による研究奨励金の申請に取り組んだ。

(2) 社会貢献力の強化

<1> 小学校・中学校への協力

新入生獲得のためである募集活動の一環としてこれまで小学校と中学校から特別授業の依頼を受けると教員を派遣してきた。また近隣中学校の中学生を招聘してのサッカー・バレーボールの競技大会も実施した。またデザイン学科の募集状況を鑑みて、中学校の美術教員との協力体制づくりは継続中である。

<2> 産学連携の推進

大学コンソーシアム八王子は、産学公連携（学生研究発表）、大学間連携（単位互換）、生涯学習（市民大学）があり、大学コンソーシアムへ参加した。また町田、相模原大学コンソーシアムへ加盟し、市民大学、産学交流に協力した。これらを通じて近隣3市に対する地域交流をさらに積極的に推進し、地域に立地する企業や自治体との交流・連携を密にし、本高専の地域における貢献度をあげることができた。

<3> 学校広報戦略の推進

今年度は学内における掲示物など情報管理を行い、つねに新しい情報が発信できる環境を作りました。また HP を新しくウェブネットワークを通じて企業や地域社会だけでなく卒業生とも広くコミュニケーションをはかることで本校のプレゼンスを高めまるようにしました。

<4> 地域社会との連携事業

平成 20 年から始まった地元広報誌（アレサ）制作による町田市小山地区の町内会、商栄会、商工会議所との交流活動や今年度 10 年目を迎える八王子の「いちよう塾」の講座を継続した。また相模原市・座間市の主催する市民大学の講座へも協力することや学校施設の市民開放を可能な限り進め、地域市民に対する文化拠点となることを目指した。26 年度に発足した「サレジオ高専地域交流協議会」との連携をさらに強めて小山・小山ヶ丘地域での本校のプレゼンスを高めるようにした。

(3) 経営力の強化

<1> 受験者数の増加を目指して

平成 28 年度生募集では、180 名の入学者になった。6 年連続の定員確保となった。一斉試験実現にむけて受験者総数の増加を目指し受験者 320 名を目標にして 330 名の受験者を獲得した。中計第 IV 期では受験者 400 名を目標数にしている。

<2> 大規模補修計画の実行

大規模補修の計画を策定したが、限られた原資のなかでの補修工事になるので、優先すべき事柄を決定し、時期を見計らって実施する。そのための予算の確保に取り組んだ。

<3> 人財（材）育成

次世代のリーダーになる教職員に SMS「サレジオ・マネジメント・システム（目標管理で仕事をする）」の理解の一層深める機会を作った。また評価者である管理職の評価方法へのいっそうの理解を促すために、研修会を実施した。

<4> 人事・給与体系の再構築

26年度に完成した新「人事・給与制度」を27年度は試行期間として実施し、労使協議会で合意をとり、平成28年度に、新たな人事・給与制度を完全に導入し、将来の経営資源を適切かつ効率的に活用できる取り組みを行った。

<5> 予算運用管理の徹底

平成28年度は昨年度に引き続き、予算運用管理を徹底して行った。そのための管理体制づくりを行った。

(4) 特記事項：サレジオミッションの実践

<1> 司牧目標

サレジオ会の指導方針であるサレジオ・ストレンナに述べられている「ドン・ボスコの生き方にならい、神さまの呼びかけに応じて生きよう」の精神を本高専の教育目標に照らしつつ実現することを目標とした。特に「神からの呼びかけに気づいて、応える」ことをどのように伝えるか工夫をした。

4. 幼児教育並びに初中等教育（小中学校・幼稚園）の概要

(1) サレジオ中学校・サレジオ小学校

<1> 総括

① 「聖霊にゆだねて冒険してみよう！ イエスと一緒に」

ことあるごとに冒険することや挑戦することを意識してきた。行事などでは子どもたち一人ひとりが自分のできることは何かを考え、積極的に参加している様子がみられた。

② 施設の管理・修理・修繕

建具、中庭タイル張替、中学校舎雨漏改修、プール柵修繕、体育館暗幕新調、防犯対策 不審者対応避難訓練等

<2> 児童・生徒募集

① 募集活動概要

小学校 カトリック学校フェア（資料のみ）、近隣幼稚園・保育園への学校案内郵送

2度の学校説明会、東京都私学展（資料のみ）、中央線沿線私立小学校合同説明会

中学校 3度の学校説明会、カトリック学校フェア、東京都私学展

共 通 西武バス小平営業所管内走行車広告、インターエデュ HP 広告、産経新聞広告（左記については新規）
毎日新聞広告、雄飛企画多摩地区私立学校紹介冊子掲載

② 児童生徒数

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
28年度末	17	20	21	19	22	20	119
29年度初	21	17	20	21	19	22	120

中学校	1年	2年	3年	合計
28年度末	30	27	20	77
29年度初	21	30	27	78

③ ホームページの充実

校長のブログについては実現に至らず、課題として残った。継続検討していく。

④ 西武バスへの広告を実施、次年度も継続していく。

⑤ 小中入学願書の郵送出願、受験料・入学金の銀行振込を実施した。入学金の値上げを実施した。

⑥ 教会やミッション系幼稚園・保育園への働きかけを図ったが、通学距離や進路希望などの課題がある。

<3> 教育指導体制の充実

- ① 校長・副校長・小中教頭での定期的なミーティングを定着・実施した。
- ② 教科指導力の向上のため、長期休暇などを利用しての研修会参加を推進し、夏期休暇中の研修会参加者が増加した。

(2) 目黒サレジオ幼稚園

<1> 教育方針

【園のことば】 きよいこころ げんきなこども

創立者ドン・ボスコの教育理念である「宗教」「理性」「慈愛」を根本にして、家庭と密接に協力しながら明るく暖かい雰囲気づくりを目指す。また、幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指し明るい社会人になるように育成する。

<2> 聖ドン・ボスコの教育の要約

子どもを教育するには、①理性に基づいて個性を伸ばす保育室、②宗教心を育むよく祈る教会、③慈愛深くよく遊ぶ運動場、の3つの場所が必要である。特に宗教心の育成については具体的に聖ドン・ボスコの教育における宗教教育を実践するために以下のようなことに取り組んできた。

- ①日常の中での祈り、神父による宗教の時間
- ②行事の中で：聖母祭、クリスマス会、創立者、聖ヨハネ・ボスコのお祝いなど
- ③保護者の希望者に向けて月2回聖書と祈りの集い、さらにカトリック要理のクラスを開設

<3> 教師のあり方

- ① 園の教育理念を深め、共通理解のもとに保育に取り組む。
- ② 一人一人の園児に積極的に関わり、子どもの状況をよく把握する。
- ③ 子どもたちがのびのびと活躍できるような環境の設定を心がける。
- ④ 思いやりの心とけじめのある態度を、教師自らが手本となって示す。
- ⑤ 職員・園児・父母の相互間の報告、連絡、相談を密にし、常に反省する姿勢を持つ。
- ⑥ 月1回、サレジオ会司祭から宗教教育についての研修を受け、カトリックの精神を身に付ける。

以上実施した。

<4> 家庭への方針

- ① 年頭に、教育理念を全父母に伝える。
- ② 家庭教育・幼稚園教育の大切さを理解して頂くよう、機会ある毎にお願いする。
- ③ 親自身が子どものお手本になるよう心掛けていただく。

以上、実施した。

<5> 年間努力目標

- ① 幼稚園全体目標 思いやりの心をもつ 何事にも意欲的に取り組む
- ② 学年のねらい <すみれ> (3歳児) 様々な環境に慣れ、園生活を楽しむ。
<ゆり> (4歳児) 集団生活に必要な態度を身に付ける。互いの気持ちを伝え合いながら友達と関わる。
<ばら> (5歳児) 状況の判断力を養う。感謝と思いやりの心を育む。

<6> 財務関係予算方針

基本方針としては以下のとおりである

- ① 園舎の老朽化が進み、近年、補修や修理では補えない状況が多くある為、予定通り園舎の改築が急務である。
しかし、建築費の高騰などの事情を踏まえ、仮園舎は建築せず、現園舎での保育を継続しつつ、新園舎の建築を進める方向で建築費を抑えながら計画していく事になった。
- ② 大学卒業教諭の初任給改善に取り組んだ。
- ③ 経費の節減に努力した。

- ④ 設備関係については老朽化しているものに対しての対応を進めた。

(3) 足立サレジオ幼稚園

<1> 教育目標

- ① サレジオ会の事業としてドン・ボスコの教育法の3本柱「宗教・愛情・納得」の実践に励む
 - (ア) 常に子どもに寄り添い、愛情に満ちた指導をする
 - (イ) 禁圧的即ち納得の得られないままでの要求はしない
 - (ウ) 宗教、道徳教育に力を入れる
⇒ (ア)、(イ) に関しては日々の保育の中で常に心掛けて保育を行った。(ウ) は園長に代わり松永副園長神父が教会で神様のお話を可能な限り実施した。
- ② 教職員の資質の向上を目指す
 - (ア) 全職員が建学の精神、教育目標を心に刻む。
 - (イ) 障がい児、あるいはその線上にいる子どもの指導法を研究し実践する
 - (ウ) 内外の研修会に積極的に参加する
⇒ 専門機関の先生に直接話を聞いたり、巡回相談も利用し、何らかの支援が必要になりそうな子への対応を学んで実践に活かしてきた。
- ③ 幼稚園の将来の方向付けについては幼保一元化などの新制度についての研究を行った。

<2> 設備ならびに財務関係予算方針

- ① 園児増加に伴い幼稚園ホール舞台に全園児が上がると、現在使用しているひな壇では不足の為、新しくひな壇を購入した。平成29年度も私立幼稚園等環境整備補助制度があれば利用したい。
- ② 園児確保のためにも最近の幼稚園経営では必須要件となっている園バスの追加購入について可否を検討し、次年度に購入することになった。
- ③ 借入金返済は園児増加に伴い順調に推移している。
- ④ 土地・施設について同一敷地のカトリック足立教会との利用取りきめを行いたい。

(4) 町田サレジオ幼稚園

<1> 教育目標

南多摩の自然に囲まれた明るい雰囲気の中で、のびのびと活動することで明るい心、おもいやりのある親切な心、素直で正直な心を育てる。

- ① 隣接する小山内裏公園に行き、自然に触れる機会を増やした。
- ② 年少、年中の2学年が揃い、学年間の交流を持つことで人間性の成長をはかった。
- ③ 発達が遅く、ケアが必要な数名の園児への対応とその他の園児のケアのバランスを考え、サポート体制を整えた。

<2> 園児募集

定員60名を確保することを目標に今年度の園児募集の活動を展開したが、前年度減であった。開園してから3年目になるが地元関係者との協議会も設置し、対応してきたが十分ではなかったようだ。今後、周囲の幼稚園の情報、地域の情報、在園する園児の父母たちからの情報を収集することで、さらに本園の運営方法を地域に合ったものに改善する。

<3> 教員の養成

専任教諭7名のうち、2名がキリスト教の信者という状況から、昨年度から実施している教職員要理を継続したが、不十分だった。また、さまざまな教育機関(全国カトリック幼稚園連盟、町田私立幼稚園連盟等)が開催する幼稚園教諭の研修会に積極的に派遣した。

<4> 財務関係予算方針

- ① 施設関係では建物の改修については、床下の水の対策、デッキの不具合の修理を行った。
- ② 備品調達では開園してようやく1年が経過したに過ぎず、また年中1クラスと年少1クラスが新たに追加されたこともあり、備品で不足しているものが多々ある。不足している備品については優先順位を決めて購入した。
- ③ 広報関係では開園して間もないこともあり、認知度を上げることが急がれる。タウンニュースや新聞折り込みなどを通じて本園の存在を広く伝えた。まだまだ十分に認知されていないことがわかったので、来年度に向けて広報の計画を立てて行きたい。